

平成31年1月14日、文化の家で平成31年成人式が行われ、707人が成人の仲間入りをしました。式典には、470人が出席。その際の市長式辞を紹介します。

みなさん、おはようございます。

新成人のみなさん、おめでとうございます。ご家族のみなさん、おめでとうございます。

今日の式典の準備をしてきた実行委員のみなさん、ありがとうございます。実は、昨年の実行委員も、今日、手伝ってくれていると聞いています。本当にありがとう。



ご来賓の市議会の川合議長、総務副大臣の鈴木衆議院議員、愛知県議会の石井県議、衆議院議員の山尾さんの秘書の方には、お忙しいところご出席をいただきまして、ありがとうございます。

まったく新しい社会になる

今日は、みなさんに2つのこととお話させていただこうと思います。

1つ目は、これからの日本は、まったく新しい社会になるということです。

日本の人口は、10年前から減り始めています。この10年間で約100万人減り、あなた達が50歳になる頃には、9,000万人台、70歳の頃には8,000万人台になると言われています。

今までの大人たちは、人口が増加する社会で生きてきました。あなた達は、人口が減っていく社会を生きることになります。そして人生100年の時代だと言われていています。

今までの社会は、山の頂上を目指す社会で、山の頂上が正解でした。早く、正解にたどり着く人が評価されました。横道にそれたり、寄り道したりすることは、ダメという評価でした。

誰も経験したことがない、人口が減っていくこれからの社会は、山を下りていく社会です。麓は360度広がり、早く下りてもそこが正解かは分かりません。誰も経験したことがない社会なので、何が正解か分からない中であっては、決し

て早くなくてもいいし、遅い人も、早い人も、上手くできない人も、上手くできる人も、じっとしている人も、元気な人も、寝たきりの人も、いろいろな人が必要で、どの人も素晴らしいのです。

どんな社会にしたら良いか、手本はありません。あなた達が作っていくことができる社会です。

これまでは人生 60 年と言われてきました。20 歳から 60 歳まで働くと 10 万時間だそうですが、人生 60 年の時代は、定年ほどなく死んでいました。人生 80 年では、60 歳から 80 歳までの余暇の時間が、働いてきた時間と同じ 10 万時間です。今、この 10 万時間の余暇をどうしたらいいか分からなくて困っている高齢者がたくさんいます。家に居ると邪魔にされるし、地域には居場所がなくて、みんな悩んでいます。

これからの人生 100 年の時代、60 歳から 100 歳までは 20 万時間あります。その時間をどう生きるか、誰にもわかりません。どうしたらいいか悩むときに、同じ考え方の人がばかりが集まっても、答えは出ません。いろいろな人がいるから、いろいろな発想があって良いのです。

20 歳までの学校や会社での評価が、良かった人も、悪かった人も、あなた達は、全員素晴らしいし、誰もが必要な時代になったのです。

一緒にまちをつくろう

2つ目に、このまちについて、お願いします。

まちを作っていくとき、役所や専門家だけでつくっていく時代は終わりました。一緒にまちづくりをしてほしいと思います。

そうしたことを決めた、条例を作りました。条例は、なかなか難しいので、ラップ調の詩を市民の有志が作ってくれました。少し聞いてください。

♪回り道でもいいじゃない やってみることこそ 大切に

失敗したっていいじゃない！ いいじゃない！ いいじゃない！ ♪

あなた達も、市民です。

仕事や勉強だけでなく、ぜひ、自分が暮らすまちに関心を持ってほしいと思います。そして、「やあ、元気か？」と声を掛け合って、いろいろな人と知り合って、人生 100 年を豊かに生きてほしいと思います。

今日は、本当におめでとうございませう。ありがとうございました。